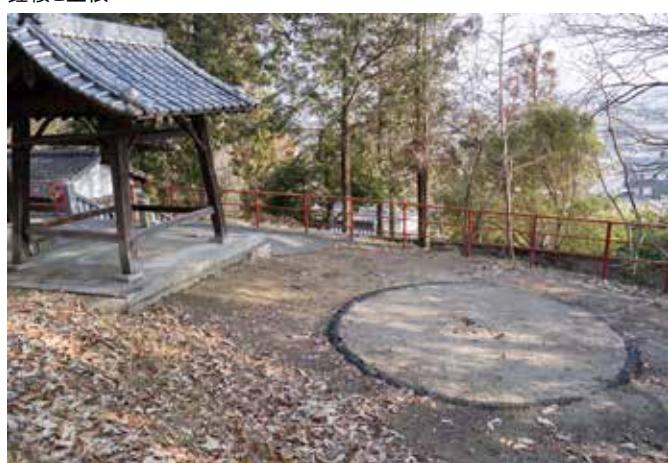


## ⑥ 天神社

菅原道真をお祀りしている旧村社（東花尻525）



鐘楼と土俵



昔、備前領尾上の丘に菅原道真公を祭祀していた小宮を東花尻村民の願いによってこの地に勧請したと云われている。尾上の宮跡には礎石もあり、この丘は天神山と呼ばれている。(きびのさとNo.74より)

昭和18年(1943)には、神饌幣帛料供進神社に指定されている。

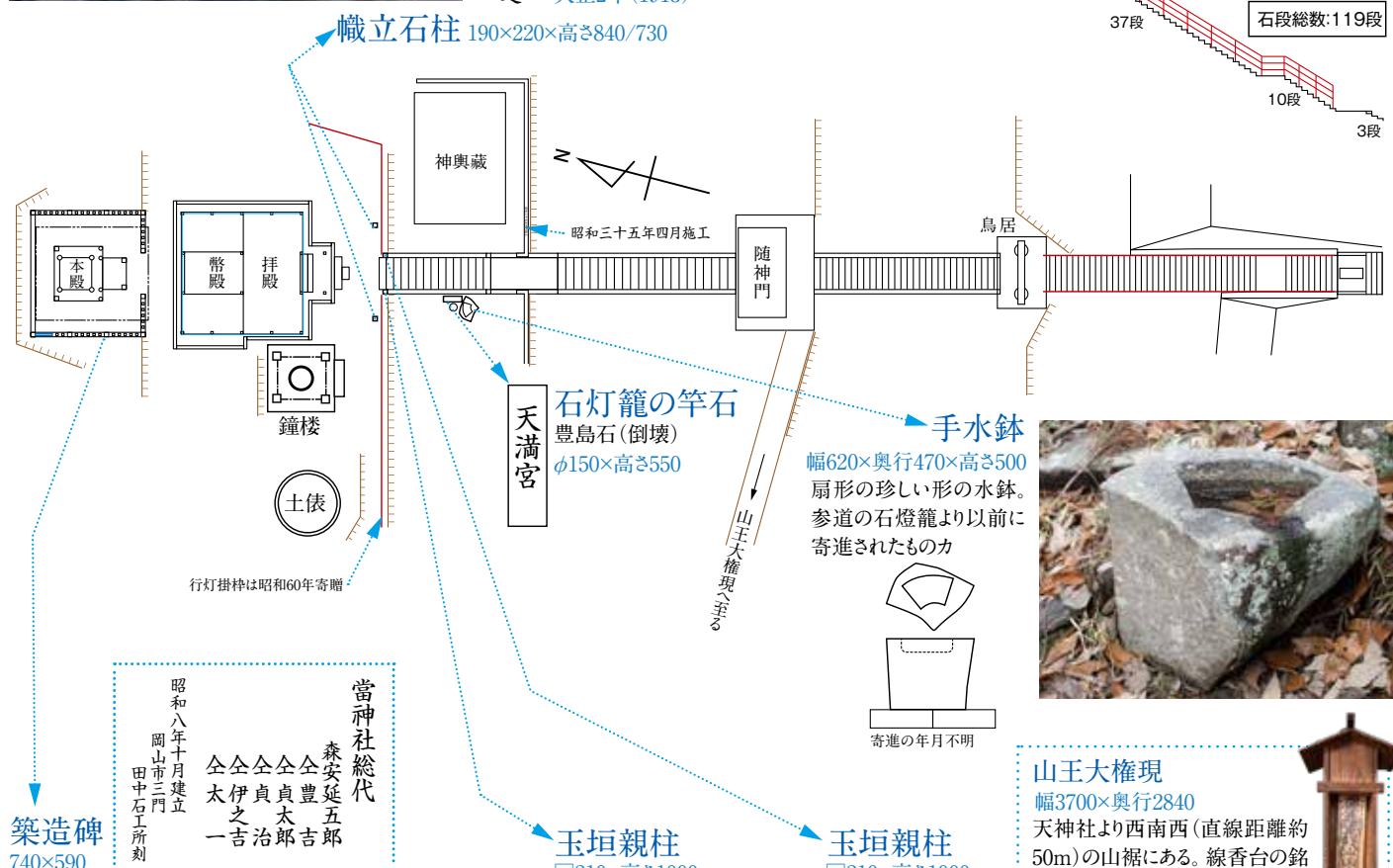
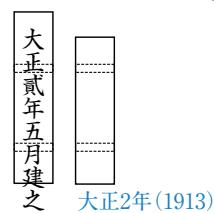
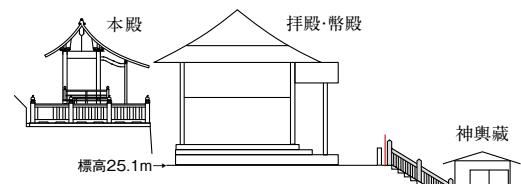
創建時は西側の山王さまを経由し山道を登り参拝した。「山王さま」は天神様の100m手前にある。その後、百八段の石段が作られた。

※山王様: 本地垂迹説で天照大神を現す。

※神饌幣帛料供進神社: 明治から終戦まで、勅令に基づき県令によって県知事から祈年祭、新嘗祭、例祭に神饌幣帛料を供進された郷社や村社を指す。

祭神:菅原道真

創建:徳川家光の時代(1630年頃)

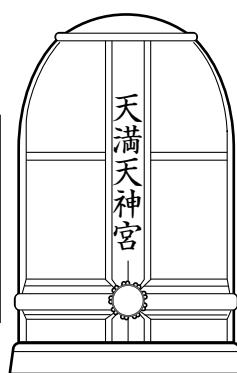


## 梵鐘

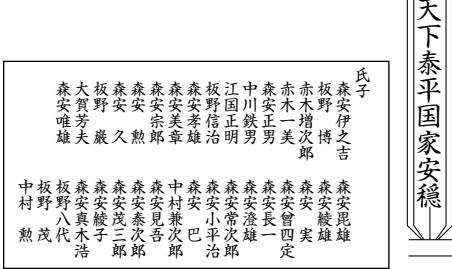


神鐘は大東亜戦争時に供出されたが、昭和29年4月に氏子の寄進によって再鋳された。近隣にあるほかの神社の鐘は昭和34～35年に再鋳されている。

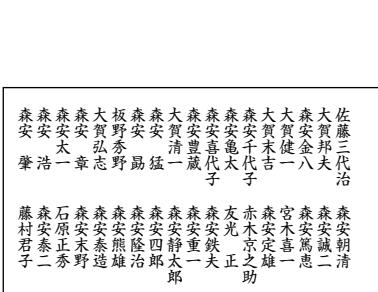
高さ1000×縁外径610



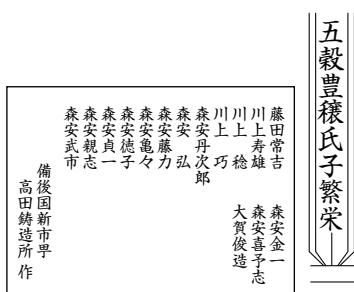
南面



西面



北面



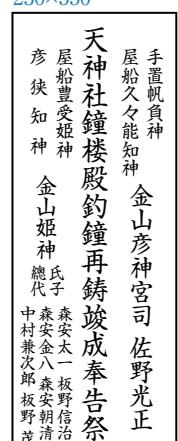
東面

## 鐘楼と土俵 土俵の直径3400



## 鐘楼の棟札

230×550



## 工匠の守り神

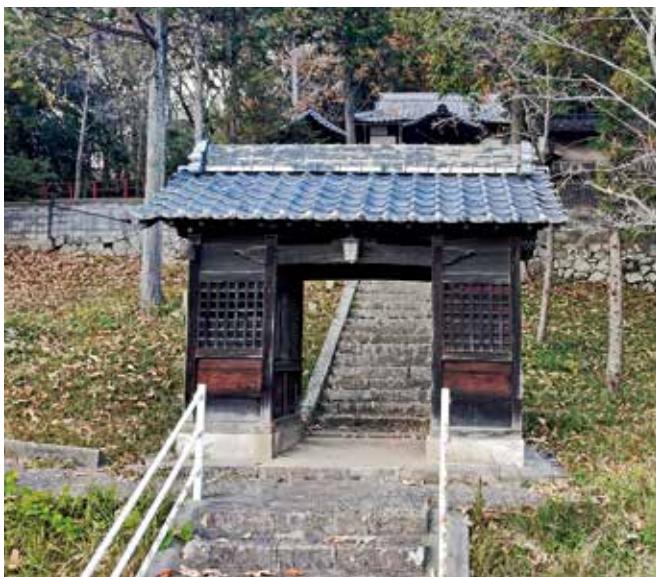
「手置帆負神」※天照大神が天の戸に隠れた時、彦狭知神と共に木を伐り出し、端殿(社殿)を作った神。

「彦狭知神」※匠の守護神とされる。「彦狭知神」※匠の守護神とされる。

## 家屋の守り神

「屋船悠久能知神」※樹木の神

「屋船豊受姫神」※稲穂の神

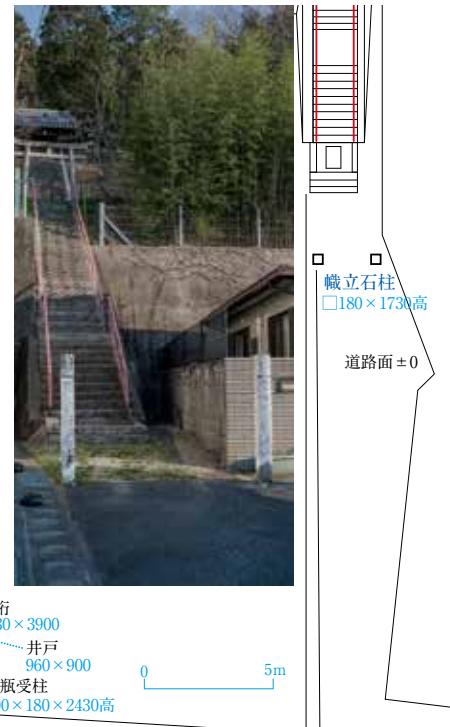


### 随神門内の寄附札 昭和60年の随神門修理の寄附札

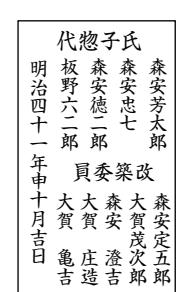
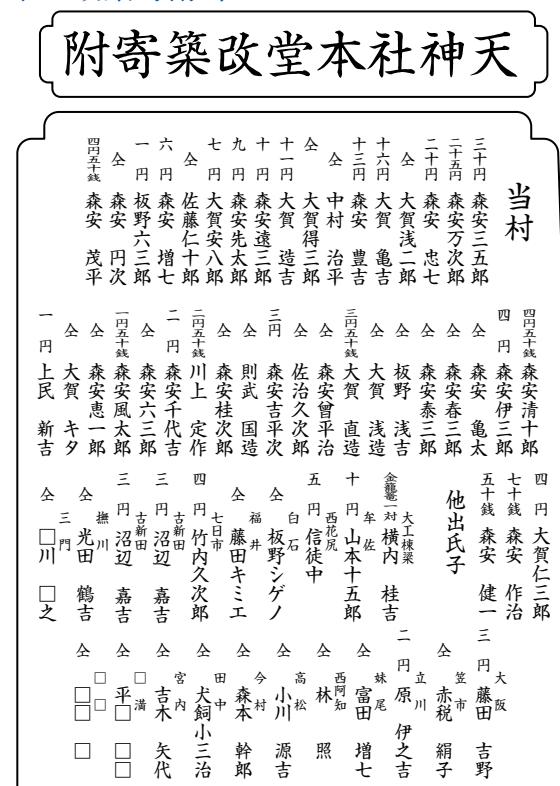
## 常夜灯と寄附碑



## 幟立石柱

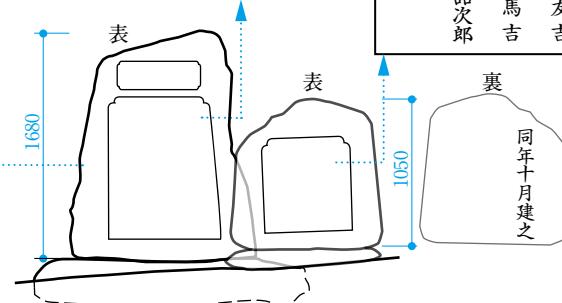
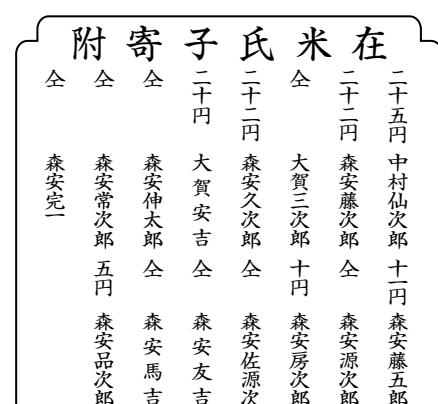


## 本堂改築寄附碑



## 在米氏子寄附碑

明治41年(1908)の本殿改修工事に渡米している氏子15名から寄附を受けた。寄付者の総数は72名、うち在米者は15名である。寄付金543円のうち、在米者は4割を寄附している。



## 常夜燈(一对)

この石灯籠は基台が3段あり、他の神社のものより高くて大きい。

